

コロナウイルス文献情報とコメント(拡散自由)  
2020年7月10日

1. **新型コロナに感染した大腿骨骨折患者の術後死亡率:喫煙ありで15倍**

【松崎雑感】

検討症例数がそれほど多くないですが、持病3個以上あるいは喫煙者であることが、大腿骨骨折の手術後の死亡率を激増（15倍前後）させていたという報告を紹介します。持病はすぐには減らせませんが、禁煙はすぐできます。

# 新型コロナに感染した大腿骨骨折患者の術後死亡率:喫煙ありで15倍

Kayani B (University College Hospital, London, UK; Royal London Hospital, London, UK.), Onochie E, Patil V, et al. **The effects of COVID-19 on perioperative morbidity and mortality in patients with hip fractures** [published online ahead of print, 2020 Jul 7]. *Bone Joint J*. 2020;1-10.

## 目的:

新型コロナパンデミックの時期にも、大腿骨(頸部)骨折緊急手術の必要な患者が多く発生する。しかしこのようなハイリスク患者の手術治療の予後に新型コロナ感染がどのように影響するかはよくわかっていない。新型コロナ感染大腿骨骨折患者の周術期重篤化率と死亡率を分析し、死亡率を増加させるリスクファクターを検討した。

## 方法:

大腿骨骨折の手術を受けた患者で新型コロナ感染のある者82名と、感染のない者340名を対象とした多施設(大ロンドン市のNHS病院9院)コホート調査を行った。両グループの年齢、性、BMI、骨折の形状、術式をそろえて比較した。術後30日以内の病状をあらかじめ定義された分類に従って判定した。一変量および多変量解析により術後死亡のリスクファクターを検討した。

## 結果:

新型コロナウイルス感染患者は術後の死亡率が有意に高かった(感染あり群30.5% (25/82) 対 感染なし群10.3% (35/340) ,  $p < 0.001$ )。新型コロナウイルス感染患者の術後死亡増加と関連するリスクファクターは、喫煙(ハザード比15.4 (95%信頼区間4.55-52.2;  $p < 0.001$ ) および合併症が3個以上 (ハザード比13.5; 2.82- 66.0,  $p < 0.001$ )だった。新型コロナウイルス感染患者は、非感染者より術後合併症(89.0% (73/82) 対 35.0% (119/340) ;  $p < 0.001$ )とICU管理(61.0% (50/82) 対18.2% (62/340);  $p < 0.001$ )が有意に多く、入院期間(平均13.8日(SD 4.6)対6.7日(SD 2.5);  $p < 0.001$ )が有意に長かった。

## 結論:

新型コロナウイルスに感染した大腿骨骨折患者は、非感染者に比べて、入院期間が長く、術後合併症が多く、死亡率が高かった。新型コロナウイルスに感染した大腿骨骨折患者では、喫煙するあるいは3個以上の合併症を持つ場合、死亡率が増加していた。

## 【松崎コメント】

新型コロナウイルスに感染した方が、転んで大腿骨（頸部）骨折となった場合、タバコを吸う方は吸わない方よりも、手術後の死亡率が1.5倍になったという報告です。持病（高血圧、糖尿病など）が3つ以上ある方は持病のない方よりも1.3倍死亡率が高まります。持病をすぐなくすことはできませんが、禁煙はすぐできます。一刻も早く禁煙しましょう！